

次世代活躍推進特別委員会記録
【速報版】

令和8年4月20日開会

速報版

- ・この会議録は録音を文字起こしした初稿のため、誤字脱字がある場合があります。
- ・正式な会議録が作成されるまでの暫定的なもののため、今後修正されることがあります。
- ・正式な会議録が掲載された時点で速報版は削除されます。

横浜市会

開会時刻 午後1時30分

◎ 開会宣告

- 竹野内猛委員長 これより委員会を開会いたします。



◎ 調査・研究テーマ「子ども・若者の不安を取り除き、将来への希望が描ける支援」について

- 竹野内猛委員長 それでは、議題に入ります。

調査・研究テーマ「子ども・若者の不安を取り除き、将来への希望が描ける支援」についてを議題に供します。

なお、本日はオブザーバーとして、政策経営・国際戦略局、子ども青少年局及び教育委員会事務局の関係職員にも出席いただいておりますので、御了承願います。

資料を御覧ください。

こちらは、本委員会の1年間の活動経緯や議論の内容等をまとめた中間報告書案でございます。

中間報告書案につきましては、委員長名をもちまして、議長宛てに提出することとされております。

御覧いただいている案文につきましては、これまでの委員会活動の内容を基に正副委員長で取りまとめいたしました。

本日は、この中間報告書案について、皆様から御意見をいただきたいと思っておりますので、概要につきまして、私から御説明いたします。

中間報告書案の構成につきましては、過日の委員会でお諮りしたとおりでございますが、2ページには、付議事件、調査・研究テーマ、テーマ選定の理由を記載し、活動内容・意見等については、2ページから13ページにかけて記載をしております。

また、13ページの(6)にございます本日の委員会の概要につきましては、後日追記いたします。

なお、14ページから15ページにかけましては、5として、今年度のまとめを記載いたしました。

本日は、まとめの要点となる部分に下線を引きましたので、その部分を中心に御説明いたします。

令和7年度は、委員会活動初年度として、現状把握や課題整理を行い、表に示すとおり幅広い視点からの調査・研究を行いました。

本市では、子ども・若者を取り巻く社会環境の変化により、若者の将来への不安が高まり、生活満足度や自己効力感の低下、経済的負担への懸念、結婚・子育てなど将来への展望を描きにくい状況が生じていることが明らかになりました。

また、子ども・若者を取り巻く環境は、不登校やいじめ、ひきこもり、貧困といった多様な課題が重層的に発生し、複雑化しています。

このように多様な課題を抱える本市においては、次世代の育成を社会全体で支える仕組みづくりが一層重要であると考えます。

困難を乗り越えた当事者の事例や意見を直接伺う機会を増やし、多様な事例を蓄積・共有していくことが必要であり、また、若者を取り巻く状況の複雑化に対応するため、ITやデジタル技術を活用した新たなアプローチの検討に加え、中間支援や若者支援の経験を有する人材の育成・確保を着実に推進し、経験豊富な

支援者が直接寄り添い伴走する体制を強化していくことが重要であると考えます。

加えて、子ども・若者に関する課題は教育や就労、家庭環境など多岐の分野にまたがっており、一つの事業や取組では捉え切れないため、本委員会が持つ横串を通す機能が重要であり、様々な取組や事例を把握し、施策同士のつながりを見通す役割を担っていく必要があります。

本市の抱える課題を社会全体の課題として捉え、特別委員会ならではの横断的な視点から、本市の取組につながりを見通す調査・議論を次年度以降も継続していくことが大切です。

そして、行政当局におかれては、今後、本市が持続可能な社会の価値をさらに創出していくため、子ども・若者が安心して将来に向き合い、自らの力を最大限発揮できる環境を整えることができるよう、より一層の取組を期待すると結んでおります。

中間報告書案についての私からの説明は以上です。

この案をもちまして、中間報告書として確定したいと考えておりますが、委員の皆様方から御意見等がございましたら、お伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○ **井上さくら委員** ありがとうございます。

大変多岐にわたるといいますか、改めてこの特別委員会自体が今年初めて設置されたもので、非常に意欲的なテーマで取り組むことができ、大変意義があったと思っています。

やはり一方で、非常に幅広といいますが、多様で複雑というか、な問題でもあるので、ちょうど次の1年が言ってみれば報告書を出す1年になると思いますので、構成は変わりますが、ぜひ少し行政に具体的な施策が提示できるような形で、次回できたらいいのではないかなと思います。

その上で私自身が感じたのは、やはり若者、若い人たちはエネルギーとか、やりたいこととか、意欲というのは非常にたくさんあるんだけど、一方で、社会全体のセーフティーネットといいますが、ちょっとその道といいますが、敷かれたところから外れたときの不安感というものがある、なかなか挑戦がちょっと難しいようなケースがあるのかなと感じています。

そうすると、若い人たちが思い切り意欲的にいろんな挑戦をしてもらうためにも、もし何か一つうまくいかななくても、必ずそこにはセーフティーネットがあるんだよと。そこを公共、横浜市だとかが手厚くちゃんとその網から落ちこまないようにしてあるんだよということを示すというのが、自治体や大人というか、公共セクターの側に一番求められていることではないかなと思いました。

その辺をぜひ横断的な議論の中で、次年度まとめていただけたら非常にいいかなと思っています。

以上です。

○ **竹野内猛委員長** ありがとうございます。大変に重要な御指摘だと思います。

また、本当に来年度の体制がどのようなメンバーに、構成になるかにもよりますが、まさに今御指摘のあったような、しっかりと具体的な提言なり、そういったものに形づけていくということは、また次年度の皆さんにも、頭を悩ませていただく内容なのかなとも思いますけれども、継続で、また、当局の皆様にもしっかりとその旨を受け止めていただいて、やっていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。

○ **藤代哲夫委員** まず、このような報告書案をお取りまとめいただきました正副委員長の皆さんに、感謝申し上げます。

先ほど井上委員からもお話がありましたように、非常に幅広い議論であったということが率直な感想で

あります。

このテーマ選定の理由の中でも、様々な視点の中での課題整理ということが必要なのかなというところのいわゆるその考え方と、そしてその考え方に基づいてどう取り組んでいくかというところで、このこども・若者の不安の取り除き、将来の希望が描かれる支援ということで調査・研究を行うこととしたことは、本当にこれは有意義な議論もできたのではないのかなと思っています。

そういう中で、先ほど幅広な議論があったということと同時に、やはり公で考えていかなければならないこと、それは取組だったり施策だったり。そしてまた、民間というか、地域だとか民間で様々取り組んでおられる方もいらっしゃる中では、やはり実際にこの取組を行っている民間の立場での方々もいらっしゃいますから、やはりこれも今後の議論になってくるんだと思うのですけれども、これはある意味ずっと言われていることなのかもしれないのですけれども、やはり公と民間がしっかりと連携をした取組というのが必要なんだというところを、少しそういう考え方をちょっと、つまり次年度になるのか分かりませんが、少しこの公民連携という取組の中での今後のこども・若者の取組というところを少し考えていけばいいなということが、今回この報告書をまとめていただいた中で少し感じたことでありますので、これも次期の方々の、メンバーの新たな構成での議論になると思いますけれども、その辺が少し引き継がれていけばいいなということを考えさせていただきました。

まず、お取りまとめいただいたことを感謝申し上げます。

以上です。

- **竹野内猛委員長** ありがとうございます。今の公民連携という部分もそうですし、あと報告書の中でも強調している、やっぱりこの委員会が局にやっぱり横串、施策に横串を刺すという部分の存在意義というか、大きいと思いますんで、そういうところを次年度以降も意識していただきながら、テーマ選定から議論を深めていただきたいなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

- **藤崎浩太郎委員** ありがとうございます。ちょうどいい感じでしたね。指名と挙手と一緒に、ありがとうございました。

本当に、委員長・副委員長の皆様には御努力、御尽力いただきまして、本当に大変な作業だったと思いますけれども、ありがとうございました。

前回ですかね、委員会で提案、この場で提案させていただいたまとめの一覧表というのも作っていただいて、本当に皆さんが何してきたかが次につながりやすい表かなと。読まなくても、どこ行ったかがこれで分かるという、本当に引継ぎしやすい資料を作っていただいたなと思います。

もともと、こども・若者というテーマと、冒頭からこの中にもありますけれども、課題を幅広く洗い出しと書かれているので、これだけこども・若者という言葉を使って、その不安ですよ、こども・若者の不安といったときに、これだけ多様なテーマを各委員の皆さん、会派の皆さんが受け止めたという意味では、これだけではないでしょうし、幅広く洗い出そうとすればさらにたくさんの課題もあるだろうと思います。あると思いますね。

一方で、一般論でこども・若者といったときに、我々が思うこども・若者ですらこれだけ多様であるということは、市民の皆さんの思うこども・若者像と、そして当事者のこども・若者の感じている不安というのも、恐らくもっと多様な状況にあるのではないかと感じました。

我々Z世代という形で、北九州市のZ世代はみ出せコンテストなんかも行かせてもらいましたけれども、やはりそこには当事者の声をしっかりと形にしていこうという姿勢がありましたので、来年度、どういった委員会構成になるか、委員長・副委員長をはじめ、どういうテーマになるか分かりませんが、やはりいろんな活動の中で当事者の声というものが大事にされてきているとも感じました。

やはりこの委員会としまして、来年度の設定がどうなるかは置いておいたとしても、やはり議員が受け止めることも・若者、行政が受け止めることも・若者、市民の皆さんが受け止めることも・若者、そしてその子ども・若者の中にある本当の不安みたいなものにたどり着けるような議論を重ねられるといいんだろうなと感じました。

いずれにせよ、本当にたくさんの議論とテーマがある中で、こうやってまとめていただきましてありがとうございました。1年、お世話になりました。

○ **竹野内猛委員長** ありがとうございました。

この報告書のこの表は、まさに藤崎委員の提案で盛り込ませていただいたやつで、例年だと文章ばかりのこの報告書の中で、非常に分かりやすく、何を問題としてきたのかという報告書も、いい形でまとめさせていただけたと思います。ありがとうございました。

ほかに。

○ **長谷川琢磨委員** ちょうど9ページのほうに書かれているのですが、当日、僕は無責任な大人ということを書いてしまったのですが、ふわっと地域で子供たちを見てくれる大人の存在が子供にとっては重要だということで、どういう形でその地域の仕組みづくり、子供、家庭や学校以外で大人と関われるその地域の仕組みづくりをしっかりと検討していかないといけないということでお話しさせていただいたときに、都筑区のほうで、今回区づくり推進費のほうの予算で、子供の居場所をつくろうというので、結構頑張ってくれた取組があるのです。

ぜひ当局の皆さんは、今、都筑区のほうで何が行われているのかな。それで、逆に気にしながら、もし何か自分たちも、あ、こういうのどうだろうかというのがあれば、今ちょうど区づくり推進費で今実験的にやっていますから、それを気にしていただいて、ちょっと関わることがあれば、まだ区のほうの事業ではありますけれども、ちょっと関わっていただいて、来年度に向けてどうしていくのかということもちょっと考えながら、取組を進めていただけたらいいなということを、ちょっとすみません、ちょっとずれてしまいましたが、要望としてお願いいたします。

○ **竹野内猛委員長** 要望として受け止めていただければと思います。よろしくをお願いします。

他にいかがでしょうか。

○ **大和田あきお委員** 1年間、委員長、副委員長を中心にまとめていただきまして、ありがとうございました。多様な面をこれだけまとめるというのは大変な作業で、本当にありがとうございます。

私は高校の現場にいたということもあって、この間の不登校の対策校にちょっと行ってきたのですが、それで感じるのは、今の子供たちが自分を表現できないというところが大きな課題で、やっぱり特に中学の時代から思春期の統合という問題があって、そこら辺からいろいろ子供たちが悩みがあるということで、そういう意味で、また、青年の声をいろいろ伺っていく中で、今回いろんな調査していただいたということで、その点もすごく参考になりました。

次年度は、今回のを基に、今度は幾つか、具体的なテーマ幾つか、もし可能であれば設定して、それで多

様な実践例があると思いますので、それを紹介し合っていくというか、そのことによって若者像がより具体的に見えるかなと思っています。

本当に今回いろんな、これだけの初年度、まとめていただいたということ、本当にありがとうございます。今後これを生かして、さらに深めていきたいと思いますので、いろいろと1年間お疲れさまでした。

- **竹野内猛委員長** ありがとうございます。しっかりといただいた御意見も報告書に反映しつつ、次年度に引き継いでいきたいと思います。ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

- **くしだ久子委員** 本当に他の委員からのお話にもございましたとおり、正副委員長のおかげで、非常に今回初めてということで、多様な部分をまず洗い出すそうという試みであったので、大変な部分は本当に正副委員長のおかげで今年1年、非常に実りのある成果になったかなと思っています。

今日は当局の方たちもお越しくださっている中で、やっぱりこれだけ複数の局の方たちがお越しくださっているということは、やっぱり取り組んでいく上においては、もう横串は当然ですけれども、いろんな方たちが関わっていかないと、網の目を細かくしていけないんだなということも、私たちも改めて感じたところでもあります。

さっきのお話にもありましたとおり、ぜひ今年度洗い出した課題を、ぜひ次年度以降は、また新たな構成の中で、より深掘りをしていっていただけるような議論を進めていただけたらいいと思いますし、せっかく今年度私たちも議論もしてきましたので、またそれぞれの議員がこういったテーマについても取り組んでいけたらいいなと思っています。

どうも1年間ありがとうございました。

- **竹野内猛委員長** ありがとうございました。もうまさにそれぞれが、また委員会の構成がどうなるかわからないですけれども、またそれぞれがそれぞれのテーマで深めていくというのは、もう共通の決意だと思いますので、引き続きその点もよろしく願いいたします。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

(発言する者なし)

- **竹野内猛委員長** ありがとうございました。

いろいろと御意見をいただきました。

ただいまの御意見を含め、中間報告書の修正につきましては、正副委員長に御一任いただきたいと思いますが、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

- **竹野内猛委員長** ありがとうございます。

それでは、さよう決定いたします。

中間報告書につきましては、作成次第、各委員に配付させていただいた上で、委員長名をもちまして議長宛てに提出いたしますので、よろしく願いいたします。

以上で、本日の議題は終了いたしました。本構成による委員会は本日が最後になるかと思われまので、本委員会の中間報告書を提出するに当たり、御出席いただいております当局を代表して、こども青少年局から所感をお願いしたいと思います。

- **久保田こども青少年局企画部長** こども青少年局企画部長の久保田でございます。

どうもありがとうございます。

本委員会の1年間の活動及び報告書につきまして、関係局を代表して所感を述べさせていただきたいと思
います。

本委員会では、竹野内委員長、おさかべ副委員長、また、大桑副委員長をはじめ、委員の皆様にもども・
若者の活躍推進について、幅広い視点から御議論いただき、誠に感謝をしております。

昨今、子供や若者の視点に立ちまして、こども施策を総合的に推進をするという動きが大きくなっている
ことを背景として、こちらの委員会が新たに設置をされて、様々な事業や意識調査に関する御説明、また、
各地への視察や、横浜市大の宮崎先生による御講演などを通じて、委員の皆様から多くの御意見を頂戴いた
しました。

現在、こども・若者や子育てをめぐる価値観やライフスタイルも多様化しておりまして、課題もさらに複
雑化をしていると考えております。

そうした中で、それぞれ当事者の皆様や、家庭を支援する様々な取組が、多様な分野の皆様によって進め
られて、広がりつつあることについて、大変私どもとしても心強く感じているところでございます。

一方で、直面する課題を一足飛びに解決する特效薬というものはなかろうと。その中でこども・若者や支
援者の皆様の声をこのような形で丁寧にお聞きしながら、それぞれのニーズに合わせてきめ細かな支援につ
なげていきたいと考えてございますので、それを積み重ねていく必要性を改めて痛感をいたしましたところ
でございます。

そして、展開する取組がきちんと子供たちや若者に届いているのかということも、我々も当局、こども局
にかかわらず、市全体としてしっかりと検証して、状況に応じて取組を柔軟に見直しをしていくと。例えば
公民連携であったり、区における取組であったり、そういった新しい視点も今回も御提示いただきましたけ
れども、そういったことも含めて、しっかりと考えていきたいと考えてございます。

委員会からの御提案にもございましたけれども、次世代の育成に当たりましては、社会全体で支えるとい
う視点が不可欠であると承知しております。庁内はもとより関係機関、地域など様々な主体とこれまで以上
にしっかりと連携をしながら取組を進めていきたいと思います。

今後も市会の皆様と議論いたしながら、横浜の未来を担う子供や若者のために力を尽くしていきたいと考
えてございます。引き続き、皆様の御理解と御協力をお願い申し上げます。

最後に、1年間の本委員会での皆様の御活動に感謝を申し上げまして、所感といたします。どうもありが
とうございました。

○ **竹野内猛委員長** ありがとうございます。丁寧な受け止めの御挨拶、感謝申し上げます。

それでは、正副委員長を代表いたしまして、私から一言御挨拶申し上げます。

今年度は、こども・若者の不安を取り除き、将来への希望が描ける支援についてを研究テーマとして、1
年間、幅広い視点から議論を重ねてまいりました。

本市の施策について、事業所管局より説明を聴取するとともに、参考人として、横浜市立大学特命副学長、
宮崎智之教授にお越しいたごいて意見聴取を行い、委員の皆様からも貴重な御意見をいただきながら、委員
会活動を行うことができました。

このたび、大桑・おさかべ両副委員長をはじめ、委員の皆様方の御協力によりまして、本委員会の報告書
を提出する運びとなりましたことを心より感謝申し上げます。

本構成による議論は、報告書の提出をもちまして、ひとまず終了という形になりますが、今年度の調査・研究を通じ、社会環境の変化や価値観の多様化が進む中で、子ども・若者が抱える不安や課題は、様々な分野が複雑に関係していることを再認識いたしました。

次世代を担う全ての子ども・若者が将来に希望を持ち、活躍できる横浜をぜひ実現できるよう、当局におかれましては、本委員会の報告書を踏まえた取組を進めていただきたいと思いますし、また、我々も引き続き研究を深めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、円滑な委員会運営に御協力いただきました委員の皆様並びに当局の皆様を重ねて御礼を申し上げて、正副委員長を代表しての挨拶といたします。1年間誠にありがとうございました。



◎ 閉会宣告

- 竹野内猛委員長　以上で、本日の議題は全て終了いたしましたので、委員会を閉会いたします。
お疲れさまでした。

閉会時刻　午後1時53分

速報版